列車選択行動に対する予測情報の提供効果

深澤紀子　山内香奈　村越暁子　藤浪浩平　辰井大祐

ダイヤ乱れ時に旅客が必要とする情報は予測を含むものが多いため，与えられた情報に対する旅客の判断・行動ならびに意識を把握することが望まれる。そこで都市圏の通勤通学客を対象に，予測を含む個々の列車の詳細な運行情報を提供した場合の，列車選択行動やその選択理由の変容について被験者試験を通じて評価を行った。その結果，情報が得られない場合は一列車に集中するが，詳細な運行情報が得られた場合は複数列車に分散することを明らかにした。これは各列車を早さのみ，または混雑度のみといった単一の要因で評価するのではなく，複数の要因を旅客個人の価値観において比較検討することにより，個人の状況に応じた列車選択が可能になったためと考えられる。さらに予測が外れた場合の許容率と考え方について調査をした結果，ある程度の誤差を見込んだ上で到着予想時刻や混雑度などの不確実性を含む情報を活用したいと考える旅客が多いことが示された。

（鉄道総研報告，2011年12月号）

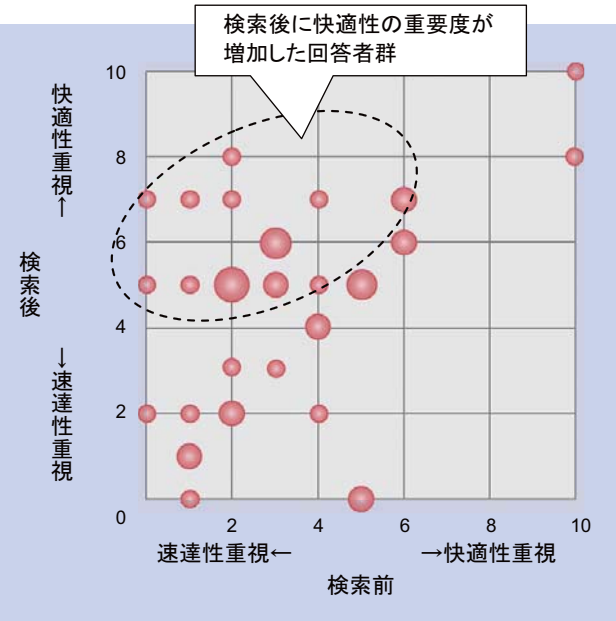

図　詳細な運行情報の検索前後における速達性と快適性の重要度の変化